

心のお便り

折尾高校修学課 vol. 3 R3.6.22

【理解こそ解決の道】

折尾高校では、1年間に4回「人権教育特設授業」が行われています。世界にはたくさんの人権に関する課題があります。最近では、新型コロナウイルス感染症に関する

差別の問題が大きく取り上げられています。差別の多くは、正しい知識や理解の不足が要因で起こっています。やはり「理解こそ解決の道」なのです。正しい知識や理解があれば、差別で苦しめられることも、また差別で人を苦しめることも減らしていくことができるのです。

「人権を守る」とはどういうことか。みなさんは「人権教育特設授業」を通して理解を深め、行動に移していくことができると思います。明治時代、文豪夏目漱石は、「人権」という言葉を使ってはいませんが、「自分の自由と同じように他人の自由を尊重することが大切である」と述べています。さらに「個人の自由を守るためには、自由に必ずくっついてくる義務というものを、しっかりと意識して行動するべきだ」とも説いていました。私たちがルールやマナーを守るという行動もまた、実は他人の自由を大事にするにつながるということを教えてくれています。日々の生活において、自分を大切にすると同じように自分の周りの人を大切にすることを意識して過ごすことが、学びを生かすことにつながるのではないのでしょうか。



【言葉の力】

ある地域の野球チームに、常勝軍団と呼ばれるチームがあります。そのチームは、練習の時も試合の時も、前向きな言葉かけしかしないそうです。どんなに失敗しても、何かいいところを声に出していくのです。また、別の高校生チームは、毎日の練習の終わりに、自分たちで立てた目標をみんなで唱え続けた結果（それは県大会優勝という目標でしたが）、本当に目標を達成してしまっただけです。

言葉には、褒めたり感謝したりするような肯定的な言葉ほど何回も言わないとなかなか伝わらない、という性質があると感ずます。反対に、相手を否定したり責めたりする言葉は、1回でグサッと刺さって、強く心に刻まれるようです。この二つのチームは、前向きな言葉を繰り返し発していくことで、自信が付きたり、信頼関係が築かれたりして、実力をつけていったのではないのでしょうか。

折尾高校では、生徒のみなさんが友達を思いやる言葉をたくさん発している様子を、いつも見ることができます。私たちはその姿に、いつも励まされて力をもらっています。これも言葉の力ですね。ありがとうございます。



【おすすめの本】

ブレイディみかこ著『ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー』。(紹介文より：優等生の「ぼく」が通い始めたのは、人種も貧富もごちゃまぜのイカした「元・底辺中学校」だった。ただでさえ思春期ってやつなのに、毎日が事件の連続だ。人種差別丸出しの美少年、ジェンダーに悩むサッカー小僧。時には貧富の差でギスギスしたり、アイデンティティに悩んだり……。何が正しいのか。正しければ何でもいいのか。生きていくうえで本当に大切なことは何か。世界の縮図のような日常を、思春期真っ只中の息子とパンクな母ちゃんの著者は、ともに考え悩み乗り越えていく。連載中から熱狂的な感想が飛び交った、私的で普遍的な「親子の成長物語」。作者は福岡県出身なので、なじみの方言も出てきて親しみやすい一冊ですよ。図書館にもあります。

